

た。バーチャルリアリティをトピックとする学会ならではの抄録集になったと我々出版委員も自負している。

今大会で大会論文集をCD-ROM 論文集と抄録集にしたことにより、発表者や参加者の方々にご迷惑をおかけしたことも少なく無い。次回以降、同様の問題が発生しないよう、再度検討した上、次期委員への申し送りとさせていただきたいと思う。

なお、表紙の曼荼羅はVRを中心とし、関連の強い技術と思われるものを周りに配置した。さらにその周りにも要素技術が取り囲んでいるのだが、これらには皆さんのVR研究に関するキーワードを入れていただき、各々のVR曼荼羅を今後完成させていただきたい。



第9回大会論文集抄録集

◆会計担当より

黒田知宏

会計担当（京都大学）

前回大会の直前、幹事である横小路先生からの「黒田先生、次回大会の会計お願いしますね」という突然のお言葉で私の第9回大会は始まった。「ま、第8回大会の決算を踏襲すればよいだろう」という私の甘い読みは、第8回大会が岐阜県からの支援の下で開催されたという事実によって最初から木々端みじんに打ち砕かれ、支援分を除くと予算的には余裕がないことが分かった。幸い実

行委員全員が「懇親会は派手に、他は緊縮財政で」ということで一致し、会場を当初予定していたばるるプラザから京都大学に移し、予稿集をCD-ROM化するなど、支出の大幅なシェイプアップをすると同時に、参加者の皆様には申し訳なかったが、参加費を若干上乘せさせて頂くことで、どうにか予算の形を作ることが出来た。ふたを開けてみれば、実行委員の先生方の努力で多くの企業展示が集まり、また過去最多の参加者数を数え、予想よりも若干黒字で大会を終了出来そうではっきりしている。振り返ってみれば、総務の角所先生が会期中に「今回の実行委員会には誰も慎重な人がいないから、ブレーキが全くかからずに何でもやっちゃいましたね」とおっしゃっていたように、「いけいけどんどん」な先生方が集まっていたお陰で、全く予想がつかない試みが平気で実現され、私のいい加減な予算読みによって、会計的には何度もどきどきしたにもかかわらず、時には無料で企画を実現して頂くことで、結局大きな事故無く財布を閉じることが出来そうである。次回実行委員に引き継ぐことが出来れば、「みんな優秀な先生方だから、方針さえ示せば何とかして頂けますよ」の一言に尽きるだろう。私の無理な注文を実現して頂いた実行委員の先生方と、面倒くさがる私の代わりに詳細な会計管理をして下さった京大病院医療情報部の塩見香保里女史に心から感謝したい。

◆総務担当より - 大会総務とVR技術? -

角所 考

総務担当（京都大学）

VR学会の大会を開催するための主な仕事には、会場準備やプログラム編成、展示、出版、広報、懇親会、ツアー、会計... 等々がある。これらを縦糸と見た場合、総務の仕事は横糸に相当し、各担当実行委員による縦糸の仕事を取りまとめ、全体的な連携を保つのが主な役目と言える。今回この役目を担当して痛感したのは、メールによるコミュニケーションの不便さであった。実行委員会の頻度は、委員のスケジュール的に2箇月に1回程度が限界であり、それ以外はメールで情報交換せざるを得ない。ところが、そのようなメールは長文になりがちで、どの委員に送るべきか即断しにくいものはいきおい委員全体のメーリングリストに送られるため、長文のメールが頻